

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	八潮市立八幡中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	0	10	22
生徒数	134	113	116	0	363	

研究の概要

1. 研究主題

**生きる力をはぐくむ学習活動の工夫**

～基礎・基本学力の向上と発展的な学習のために～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・全教科

学力向上は、全教職員の共通理解の下、全教科で計画的・継続的に取り組むことにより図られるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p><b>テーマ 生きる力を育む学習活動の工夫</b> ～確かな学力の向上をめざして～</p> <p><b>研究の見通し</b> 次の3つの研究方針に基づき、研究、実践を積んでいけば、学び方、考え方を身につけ、生き方を考える生徒を育成することができるであろう。 <b>&lt;八幡中の学力向上フロンティアスクールを推進する上で3つの研究方針&gt;</b> (1) 個に応じた指導法の工夫・改善と指導体制の確立 (2) 地域人材の活用による学習意欲の向上と学びの機会の充実 (3) 選択教科で既習事項の補充・深化</p> <p><b>研究内容・方法</b> (1) 個に応じた指導法の工夫・改善と指導体制の確立 きめ細かな指導で、基礎・基本や自ら学び考える力を身に付ける ・各教科で少人数指導・習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな指導を推進し、基礎・基本の確実な定着や自ら学び自ら考える力の育成を図る。 発展的な学習で、一人一人の個性等に応じて生徒の力をより伸ばす ・各教科で理解の進んでいる生徒は、発展的な学習で力をより伸ばす。 学習指導に生かす評価方法と評価計画を見直す ・授業後の自己評価や評価テストにより、わかりやすい授業の見直しと基礎学力の定着を目指す。 ・評価Cのついている生徒へ支援を行う。 (2) 地域人材の活用による学習意欲の向上と学びの機会の充実 選択教科における地域人材の活用 ・より専門的な見地から、学習活動を支援する。 クローバertime(総合的な学習の時間)におけるゲストティーチャーとしての授業の充実 ・課題設定や調査活動時に興味関心の高い学習教材を提供する。 ・地域の施設を活用し、学びの機会を増やす。 学生ボランティアの協力体制の確立 ・各教科で学習支援により、わかる授業と学習意欲の向上を目指す。 ・放課後の補習教室の実施により、授業の理解を援助する。 (3) 選択教科で既習事項の補充・深化 補充的な学習の充実</p>
--------	---

- ・生徒の理解度に応じた学習教材の開発と支援の仕方の充実を目指す。
- ・発展的な学習の充実
- ・教科学習で興味関心を高めた学習内容の深化を目指す。

平成  
15  
年度

## テーマ 生きる力を育む学習活動の工夫

～基礎・基本学力の向上と発展的な学習のために～

### 研究の見通し

6つのキーワードを前提に、個に応じた指導法の工夫・改善と、学習意欲の向上のための支援方法の確立を図ることにより、学び方・考え方を身につけ、生き方を考える生徒を育成することができるであろう。

6つのキーワード＝生徒アンケートより

少人数学習 体験的な学習 課題解決学習 習熟度別学習  
個別化、個性化学習(個別化 学習の進度を変える。 個性化学習の内容を変える。) 適切な評価

### <八幡中の学力向上フロンティアスクールを推進する上で2つの研究方針>

- (1) 個に応じた指導法の工夫・改善とその確立を図る
  - ・習熟度別学習、グループ学習等の少人数学習や、チームティーチング、個別化・個性化学習を通し、きめ細かな個に応じた指導を実践する。
- (2) 学習意欲の向上のための支援方法の確立を図る
  - ・学習意欲を喚起するため、体験的な学習や問題解決的な学習、地域人材を活用した学習方法を推進していく。
  - ・授業後の自己・相互評価や個人カルテにより、個に応じた評価を推進していく。
  - ・学び方ハンドブック(生徒用シラバス)を作成し、生徒が見通しを持ち、学習に取り組めるようにする。

### 研究内容・方法

- (1) 個に応じた指導法の工夫・改善とその確立
  - ・個に応じた指導を充実させるために、習熟度別学習とチームティーチングを実施する。  
教科(実施学年): 数学(1・2・3年) 社会(3年)  
英語(1・2・3年)
  - ・毎日、学生ボランティア(文教大学)の支援を受け、学習でつまづきを持つ生徒、発展的な問題に取り組んでいる生徒を対象に放課後スクールを実施する。 教科(実施学年): 数学、英語(1・2・3年)
- (2) 学習意欲の向上のための支援方法の確立を図る
  - ・選択授業により、生徒の興味、関心、意欲をそそる多くのコースを設定し、補充的な学習、発展的な学習の充実を図る。  
教科(実施学年): 1年 3教科6コース(数学、社会、英語)  
2年 4教科45コース(音楽、美術、技術・家庭、保健体育)  
3年 9教科57コース
  - ・習熟度別学習・チームティーチングにより、生徒個々に応じたきめ細かな指導を実践し、補充的・発展的な学習を実施する。
  - ・指導と評価の一体化を図り、評価規準に対応し、生徒のよさを引き出し、やる気を起こさせ、どこをどう伸ばしていくかを重視した評価のあり方を探求する。  
評価を組み入れた年間指導計画(シラバス)の見直しを行うとともに、生徒用シラバス(学び方ハンドブック)の作成を行う。  
9教科(全学年)  
的確な評価を実施することをねらいに、生徒一人一人の評価の蓄積のための評価資料(教員側・生徒側ともに)の作成を行う。9教科(全学年)  
学習の成果を記載しただけの成績表で終わることなく、その後の学習に有効活用できる学習カルテ的な成績表の作成を行う。  
(全学年)  
評価Cのついている生徒へ支援を行う。

\* より実態に即した研究にするために、研究主題・内容等を再検討し、昨年度の中間報告書の内容を変更した。

平成  
16  
年度

## テーマ 生きる力を育む学習活動の工夫

～基礎・基本学力の向上と発展的な学習のために～

### 研究の見通し

6つのキーワードを前提に、個に応じた指導法の工夫・改善と、学習意欲の向上のための支援方法の確立を図ることにより、学び方・考え方を身につけ、生き方を考える生徒を育成することができるであろう。

6つのキーワード＝生徒アンケートより

少人数学習 体験的な学習 課題解決学習 習熟度別学習  
個別化、個性化学習（個別化、学習の進度を変える。個性化学習の内容を変える。） 適切な評価

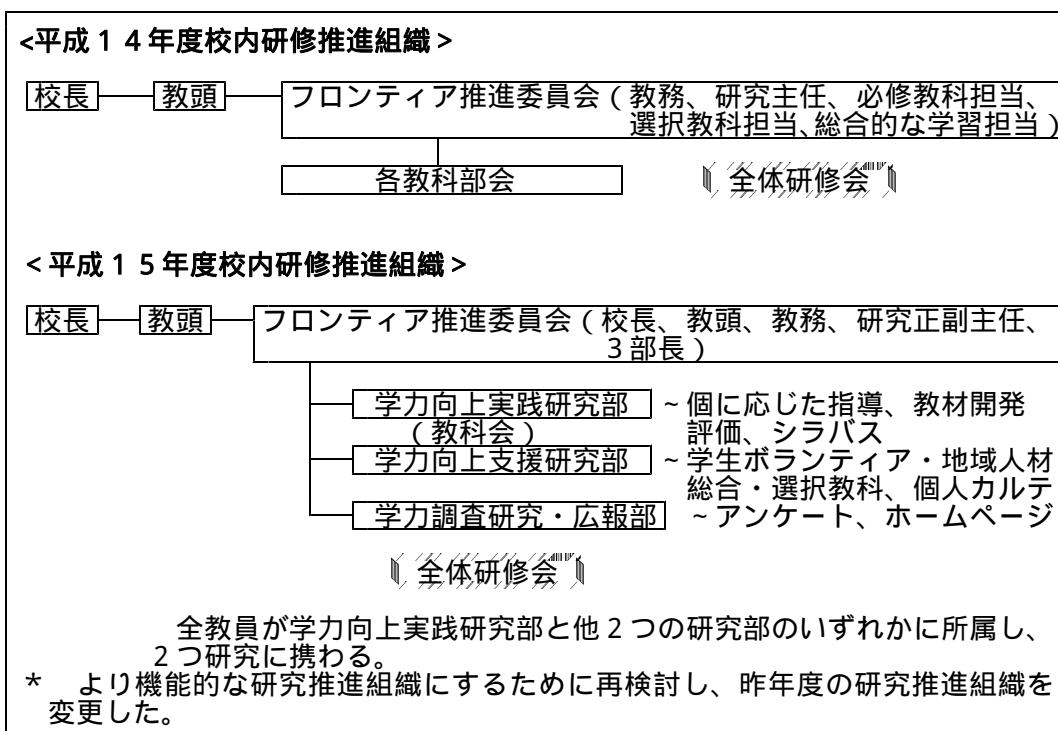
### <八幡中の学力向上フロンティアスクールを推進する上で2つの研究方針>

- (1) 個に応じた指導法の工夫・改善とその確立を図る
  - ・習熟度別学習、グループ学習等の少人数学習や、チームティーチング、個別化・個性化学習を通し、きめ細かな個に応じた指導を実践する。
- (2) 学習意欲の向上のための支援方法の確立を図る
  - ・学習意欲を喚起するため、体験的な学習や問題解決的な学習、地域人材を活用した学習方法を推進していく。
  - ・授業後の自己・相互評価や学習カルテにより、個に応じた評価を推進していく。
  - ・学び方ハンドブック（生徒用シラバス）を作成し、生徒が見通しを持ち、学習に取り組めるようにする。

### 研究内容・方法

- (1) 個に応じた指導法の工夫・改善とその確立
  - ・個に応じた指導を充実させるために、習熟度別学習とチームティーチングを実施する。  
教科（実施学年）：数学（1・2・3年） 社会（3年）  
英語（1・2・3年）
  - ・生徒一人一人に応じた教材開発の研究を推進する。
  - ・毎日、学生ボランティア（文教大学）の支援を受け、学習でつまづきを持つ生徒、発展的な問題に取り組んでいる生徒を対象に放課後スクールを開催する。 教科（実施学年）：数学、英語（1・2・3年）
- (2) 学習意欲の向上のための支援方法の確立を図る
  - ・選択授業により、生徒の興味、関心、意欲をそそる多くのコースを設定し、補充的な学習、発展的な学習の充実を図る。
  - ・習熟度別学習・チームティーチングにより、生徒個々に応じたきめ細かな指導を実践し、補充的・発展的な学習を実施する。
  - ・指導と評価の一体化を図り、評価規準に対応し、生徒の良さを引き出し、やる気を起こさせ、どこをどう伸ばしていくかを重視した評価のあり方を探求する。  
多面的な角度から数値化した評価、それをもとにした評定の割り出し方、及び説明責任が果たせる評価・評定の研究推進を行う。 9教科（全学年）  
生徒自らが振り返りができ、課題を見つけることができる毎時間の自己評価票の活用方法の研究推進を図る。  
学習の成果を記載しただけの成績表で終わることなく、その後の学習に有効活用できる学習カルテの有効な活用方法の研究を行う。（全学年）  
評価Cのついている生徒へ支援を行う。
  - ・生徒自らが計画的に学習ができるように、生徒用シラバス（学び方ハンドブック）の活用に関する研究実践を推進する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

本校独自の学力・確かな学力のとらえ方を明確にし、研究計画・方法等、研究の骨子を再検討することにより、全教員が研究の方向性や取り組みに対し共通理解が図れ、スムーズに取り組むことができた。

授業研究の取り組みにより、少人数指導、個別化・個性化学習、体験的な学習等、個に応じたきめ細かな指導に対する教員の意識改革が図られつつあり、それを意識した授業展開が日常でも実践されるようになった。

生徒に行った学習に関するアンケートにより、2・3年生ともに、昨年度に比べ習熟度別学習の取り組みやすさについての回答が大幅に向上している。実践の成果と考えられる。

<学習に関する生徒アンケートより 年度別比較>

	平成14年度2年生			平成15年度3年生		
	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない
アクラス全員と一緒に学習	35	69	6	36	31	4
IT・Tで学習	12	73	25	41	25	5
ウ習熟度で学習	37	40	33	55	13	3
エ体験的な学習		73	34	72	9	3
オ少人数のグループ学習		76	30	71	12	8
カ課題に対し一人で学習	28	60	22	29	35	15
キ基本を繰り返し学習	49	55	6	51	25	11
ク発展的な内容を学習	37	61	12	57	21	3

評価の重要性を教員が認識し、教員による日常の授業評価、テスト・提出物、作品での評価と、多方面から考えた評価を行うようになってきた。

校内研修において、習熟度別の授業を全教員で授業診断したり、他教科とチームを編成し相互に授業を参観・診断する等、指導法など他教科から多くのことを学び取ることができた。

## 2. 今後の課題

授業研究を中心とした指導法の工夫・改善に重点を置いたが、横の連携が不十分だったため、教科全体というより教員個の研究になってしまうことが多かった。習熟度やチームティーチング等の実践を行っている教科では、横の連携を取り、さらに深めていくことで、より効果的な授業になると考える。

個に応じた授業（21世紀型授業）を実践するにあたり、生徒一人一人にあった教材を開発していく必要がある。

一斉授業においては授業規律が最重要視されていたが、個に応じた授業においても同様と考える。授業規律の定着を一層図っていく必要がある。

保護者アンケートより、本校の取り組みを理解できている保護者と不十分な保護者とに二分されている。保護者はもとより、地域・他校へさらに情報を発信する必要がある（各種通信・会合、ホームページ等の活用と授業公開による開かれた学校づくりの推進）。

振り返りと課題を見つけることができる毎時間の自己評価票の作成と有効な活用方法の研究を推進する。

多面的な角度から数値化した評価、それをもとにした評定の割り出し方、及び説明責任が果たせる評価・評定の在り方の研究をさらに推進する。

### 学力把握のための学校としての取組

- \* **生徒の学習状況の変容を捉えるために、定期的に行っている各種調査等**
  - ・ 生徒用学習に関するアンケート 実態把握・課題の追求 年1回4月実施
  - ・ 保護者用学習に関するアンケート 実態把握・課題の追求 年1回4月実施

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* **研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）**
  - 9月17日（水） 個に応じた指導法授業研究会 本校 市内小・中理科教員
  - 10月27日（月）～31日（金） 神奈川県相模原市より県外研修 本校
  - 11月12日（水） 研究実践発表会 本校 東部地区中学校教員、保護者  
参加者 来賓・指導者23名、学校参加者129名、  
保護者51名、学生ボランティア22名
  - 11月19日（水） 茨城県岩井市校長会視察 13名 授業参観、研究報告
  - 2月20日（金） 宮城県塩竈市立玉川中学校視察 2名 授業参観、研究報告
- \* **研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績（学校としての創意工夫を含む）及び今後の予定**
  - 6月28日（土） TV埼玉「サタデースクール930」にて本校研究実践紹介 テーマ：学力向上をめざして
  - 9月 1日（月） ホームページの開設
  - 19日（金） 埼玉教育9月号にて実践報告掲載
  - 11月12日（水） 実践研究報告書・公開授業指導案配布
  - 1月 9日（金） 埼玉県教育公務員弘済会報にて研究実践紹介
  - 1月23日（金） 日本教育新聞 Frontier Spirit にて本校研究実践紹介
  - 2月10日（火） 生徒用シラバス（学び方ハンドブック）完成  
来年度生徒配布予定
  - 3月31日（水） 研究紀要別冊完成予定（発表会以降の取り組み）
- \* **フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績又は予定**  
実践研究報告書の企画・作成、上記広報誌への執筆活動を行った。
- \* **研究成果の普及活動の成果（他校への反響等）等**  
<実践研究発表会時の学校参加者の意見・感想より抜粋>
  - ・ 自校の課題をしっかりと見つめ、その解決に向けて全教職員で取り組んでいる姿がよくわかった。生徒の実態からスタートし、学力向上のための6つのキーワードの割り出し、実践、そして生徒の変容につながっていると感じた。
  - ・ 研究の内容がよく整理され、「学力」が何であるかとても理解しやすくまとめられていた。研究の方向性が見え、何を取り組めば学力向上につながるの

か共通理解ができ、組織的に研究が推進されている。  
・授業公開時、地域の方や学生ボランティアの活用に工夫が見られ、大変参考になった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             3学級以下                       4～6学級  
                              7～9学級                         10～12学級  
                              13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                       T・Tによる指導  
                              その他
- 【研究教科】             国語             社会             数学             理科  
                              外国語         音楽             美術             技術・家庭  
                              保健体育      その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無